

科目名	情報社会論（共生社会形成論VI）	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	心理臨床<社会産業> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	読替科目：平成23年度以前入学生「共生社会形成論VI」	
科目概要	授業内容	本講義は、大量の情報を基盤として支えられる情報化社会について考えるための論点の提示を目的とする。特に、ブロードバンド化による社会構造、生活の変化、デジタル・ディバイド、メディア使用をめぐる個人の変化、メディア・リテラシーなどに焦点を当てて考察する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの普及がもたらした社会の変化について知ることができる。 ・個人、人間関係、地域の領域における情報化の影響についての視点を身につけることができる。
授業計画	(1) 情報化社会の論点について (2) 統計情報から見る情報化の進展 (1) (3) 統計情報から見る情報化の進展 (2) (4) 統計情報に見るデジタル・ディバイド (1) (5) 統計情報に見るデジタル・ディバイド (2) (6) 情報化社会のリスク：サイバー犯罪について (7) メディア使用と個人の変容 (1) (8) メディア使用と個人の変容 (2) (9) メディア使用と個人の変容 (3) (10) メディア・リテラシー (1) 学問的背景 (11) メディア・リテラシー (2) 学問的背景 (12) CMで考えるメディア・リテラシー (13) 情報化と若者 (1) (14) 情報化と若者 (2) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布された資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配付資料が多いので、授業後に再度読み直しておくこと
使用教材・参考文献	【教】特に指定しない。講義中で配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】木村忠正 『デジタルディバイドとは何か』 岩波書店 2001年 4-0000-02717-4 岡田朋之 松田美佐編 『ケータイ学入門』 有斐閣選書 2002年 4-641-28070-3	
成績評価方法と基準	情報化の流れが及ぼす社会的影響について一定の理解度があると認められれば合格とする。レポート60%、授業中で不定期に課す課題提出40%の割合で評価する。	
備考		